

和歌山病院での実習を終えて



中松 和海

今回の実習で最も印象的だったのが、結核病棟の構造でした。私は、以前より結核病棟は院内でも完全に隔離された場所だと思い込んでいました。また、実際に N95 マスクを装着するのも今回が初めてでした。結核病棟では、2 重扉になっており、陰圧換気など空気の流れを利用することで隔離を行っており、そのシステムに大変驚きました。また、薬理学などでも学習した DOTS を実際に見学することが出来、大変貴重な経験となりました。貴院の構造も、新しい病棟では津波対策のためにあえて 1 階は病棟を作っていないのも、災害の多い和歌山県では実用的だと感じました。

また、呼吸器疾患に対しても興味がわきました。今までは略字の多さなどから敬遠しておりましたが、呼吸器はバイタルにも関わる重要な臓器なので、将来どの科に進んでもしっかり勉強しようと思いました。SARS などの感染症、ALS に対する人工呼吸管理などは医学部に入学する前から興味がありましたが、臨床実習や研修期間に深く自主的に学ぼうと考えています。

また、先生方の講義は大変分かりやすいものでした。南方先生や駿田先生をはじめ、各先生方は、普段本を読んで理解したつもりになっていた私たちに対して、その根本のメカニズムを理解するところから教えてくださいました。とくに、南方先生の X 線の講義は大変分かりやすかったです。実際に本などでは得られない考え方を身につけることで、日々の臨床実習も楽しく勉強できるのだと感じました。1 泊 2 日という短い期間でしたが、この実習を通して呼吸器について深く考えるよいきっかけになったと思っています。

先生方をはじめ、和歌山病院のスタッフの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。私は県民医療卒なので卒後県内で研修を行う予定です。また機会があればご指導のほどよろしく願いいたします。